ポストIT時代を拓く情報化時代の薬学研究

Pharmaceutical Sciences in the "Post Info-Age"

高木 達也[1,3], 高山 幸三[2]([1]阪大院薬,[2]星薬大,[3]阪大遺伝情報実験センター)

情報化時代が到来した。各家庭にブロードバンドでInternetが接続され、BSデジタルによる双方向通信放送の受信が普及した。確かに、「IT」革命は起こったのかもしれない。しかし、デジタルコンテンツは？ソフトウェアは？となると、はなはだ心もとない状況である。私たちは既に、ハードウェアの上では「IT」時代に住んでいる。やがて「ポストIT」の時代がやってくることは疑う余地がない。

薬学に関しても、状況は変わらない。グリッドコンピューティングにより、薬学分野のデータが並列計算され、大量の計算結果を短時間で得ることが可能になった。しかし、これらのハードウェアを生かすためには、薬学データの計量的解析手法の開発と普及、応用、医薬学データのデジタルコンテンツの整備、情報系薬学ソフトウェアの整備が必要不可欠である。今後、これらの研究抜きには、薬学分野は、IT時代の恩恵を受けられなくなるおそれが強い。

本シンポジウム計画は、情報薬学、計量薬学、機械学習といった、ポスト IT 時代を拓くための先進的情報系薬学研究を行っておられる先生方にお願いし､21世紀の情報系薬学のあり方を考える基盤となる研究を紹介頂き、情報系薬学の、いや、薬学のより一層の発展に寄与することを目的としている。